

健康で快適な生活をおくるための

薬育プログラム

ティーチャーズガイド

ロート製薬株式会社

健康で快適な生活をおくるための 薬育プログラム

ロート製薬では、児童・生徒の心身ともに健康な生活をサポートするために、社員ボランティアによる次世代支援活動、「薬育」出張授業を展開してまいりました。その「薬育」活動をベースに、現場の先生方からのニーズにお応えし、学習指導要領改訂により、2012年度から正式にスタートした中学校保健体育における「医薬品の正しい使い方」単元でご活用いただける授業プログラムを開発いたしました。

さらに2015年度からは、先生方からのご要望に応え、高等学校保健体育でも活用いただけるよう「医療用医薬品承認制度」についてのコラムや資料を追加いたしました。

健康で快適な生活を送るための「正しい薬の選び方・使い方」を基本とした、健康的な日常生活をおくるために必要な知識の習得や、思考力の育成を目的とし、すぐにご活用いただける“教材提供型”プログラムです。

プログラムの特長

授業のねらい

自らの健康を適切に管理し改善していく必要性を理解する

薬に関する正しい知識を得る

自分の健康状態に応じて適切な情報を取捨選択し正しく判断する力を養う

特長1 新学習指導要領に沿って「教科授業」として実施

中学校の保健体育保健分野「医薬品の正しい使用」の単元に即した薬に関する基礎的内容を、自分自身の生活と結び付けて楽しく学びます。

また、高等学校の保健体育保健分野「医薬品とその活用」の単元に即して、薬に関する基礎的内容に加え、医療用医薬品承認制度の知識を深める教材として活用いただけます。

特長2 「健康教育」として、道徳・総合的な学習の時間で活用

健康教育の一環として、薬に関する簡単な探究活動を組み込み、症状に合わせて適切に薬を選択する必要性を学びます。

特長3 自由にアレンジが可能なプログラム内容で構成

生徒の発達段階にあわせて実施時間を選べるよう、全2時限・全1時限で実施する2種類の授業案をご用意しています。また、学校のさまざまな状況に応じて自由にアレンジができるよう、ティチャーズガイドには教材理解が深まる豊富な情報が掲載されています。

<アレンジ例>

2時限（50分×2）で実施

<学習内容>

- ・薬の種類や正しい服用・使用方法
- ・主作用と副作用
- ・症状に合わせた正しい薬の選択方法
- ・医療用医薬品承認制度のしくみ

1時限（50分）で実施

<学習内容>

- ・薬の種類や正しい服用・使用方法
- ・主作用と副作用



プログラムの構成

■関連する教科・テーマ

健康教育をテーマに、保健体育、道徳、総合的な学習の時間を活用して、教員(保健体育担当、担任)、養護教諭、学校薬剤師が連携して実施いただけます。

テーマ	医薬品の正しい使用、健康教育
対象	中学校 1～3年生、高等学校 1～3年生
関連教科	保健体育・道徳・総合的な学習の時間
関連単元	中学校 保健体育：医薬品の正しい使用 高等学校 保健体育：医薬品とその活用
時数	全 1 時限または全 2 時限

■プログラムの概要

本プログラムは「1.健康と自分の生活の関係を考える」および「2.症状に適した薬を選択しよう」の各 1 時限(50 分)、全 2 時限で構成されています。

1 健康と自分の生活の関係を考える

中学校および高等学校の「医薬品の有効活用」単元に沿って、健康的な日常生活を送るために必要な知識の習得や、薬の使用・服用方法を守る必要性を自ら考え、映像教材で解説を確認することで、薬の正しい使い方などへの理解を深めます。

2 症状に適した薬を選択しよう

医薬品の有効活用についての知識を活用して、薬に関する探究活動を行う発展的な授業として説明書に記載されている情報を読み取りながら、主体的に薬の選び方を体験し、適切に薬を選択する必要性について理解を深めます。



プログラムの教材内容

指導案を掲載したティーチャーズガイドやワークシート、スライド教材(解説映像付き)などのわかりやすく楽しい教材を提供します。



ティーチャーズ
ガイド



教員用ワークシート ※解答入り
(各授業につき 2 枚、計 4 枚)



生徒用ワークシート
(各授業につき 2 枚、計 4 枚)



スライド教材 ※解説映像付き
(各授業につき 1 スライド、
計 2 スライド)



授業の進行概要

1 健康と自分の生活の関係を考える (50分×1時限)

【授業のねらい】 自分の生活をふりかえりながら、普段の生活と健康との関わりについて考える。また、自分の生活と薬は密接に関わっていることに気づくとともに、健康で快適な生活をおくるための薬に関する正しい知識を得る。

＜習得する薬の知識＞

- 薬の種類
- 薬の正しい服用方法・使用方法(タイミング、回数、のみ合わせなど) ※目薬の正しいさし方
- 主作用と副作用

※実施詳細については、本冊子 P.5-P.7 をご確認ください

流れ・時間	内容
導入 12分	1. 本時のめあてを確認する。 2. 普段の自分の生活習慣をふりかえり、健康を維持するために必要なこと、病気になった時の対応方法を考えながら、自分の生活と薬が密接に関わっていることに気づく。  普段の自分の生活をチェックしよう
展開① 13分	3. 普段使っている薬についてふりかえり、さまざまな薬を使用している(=私たちの生活に密接に関わっている)ことを確認する。  病気やけがの時どうしていますか？
展開② 20分	4. 薬にはさまざまな種類があり、それぞれに効き方や特徴が異なることを確認する。  「内服薬」と「外用薬」に分類してみよう 5. 映像視聴 薬を正しく使用することの大切さを理解し、薬を正しく使用するためのポイントを知る。  薬の正しい使い方を考えてみよう
まとめ 5分	7. まとめ

アレンジ活用例

本プログラムは全2時限(50分×2時限)構成となっておりますが、各学校の状況、生徒の発達段階にあわせて自由にアレンジいただけます。

先生方からの
さまざまなご要望にお応えして
指導案や掲載資料を
充実いたしました。

① 1時限しか時間がとれないけど 両方の内容を組み込みたい!

1時限で2時限分の授業を実施するための指導案詳細をご用意しています。

※実施詳細については、本冊子 P.11-P.14 をご確認ください。

2 しょうじょう 症状に適した薬を選択しよう (50分×1時限)

【授業のねらい】 症状に合わせて正しい薬を選ぶためには、どのような情報を知っておく必要があるかについて、ケーススタディを行う。

＜習得する薬の知識＞

- 症状に合わせた正しい薬の選択方法
- 服用のルール
- パッケージ・説明書の見方

※実施詳細については、本冊子 P.8-P.10 をご確認ください

流れ・時間	内容
導入 5分	1. 前時のふりかえりと本時のめあてを確認する。
展開① 30分	2. 具体的な症状事例をもとに、どのように薬を選べばよいか、正しく選択するために必要な情報について学ぶ。 <div style="background-color: #f9e79f; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 症状に合う薬を選んでみよう </div> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 5px;"> 「副作用」などの確認すべき情報は、「説明書」のどこに記載されているのだろう </div>
展開② 10分	3. クイズを通して日常生活で起こり得る薬に関する疑問を考えながら、服用ルールの根拠となる考え方を知る。 <div style="background-color: #f9e79f; padding: 5px;"> 一緒に考えてみよう～薬についてのQ&A～ <医療用医薬品承認制度について学習する場合> </div> 4. 医療用医薬品の研究開発から販売までの流れを知り、医薬品は有効性や安全性を審査してつくられていることを理解する。
まとめ 5分	5. まとめ <div style="background-color: #f9e79f; padding: 5px;"> 今日の授業で学んだことをふりかえろう </div>

② 1時限しか時間がとれないから薬の知識を深めたい！

教科書に沿った薬の基礎知識を学習する場合は、「1. 健康と自分の生活の関係を考える」をおすすめいたします。

また、「2. 症状に適した薬を選択しよう」では、情報を読み取り、選択する能力を育む活動を組み込んでおり、保健体育のほかにも総合的な学習などでもご利用いただけます。

※各授業の進行詳細ページをご確認ください。

③ 医療用医薬品承認制度についても教えたい！

高等学校の学習指導要領に沿った内容として、ワークシートおよびティーチャーズガイド(本冊子)に医療用医薬品承認制度についての資料をご用意しております。

指導案の詳細についてはご用意しておりませんが、本資料を用いて自由にアレンジしてご利用いただけます。

※教員用資料については、本冊子 P.18をご確認ください。



1 健康と自分の生活の関係を考える

ねらい

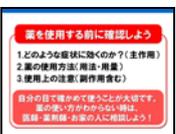
●自分の生活をふりかえりながら、普段の生活と健康との関わりについて考える。また、自分の生活と薬は密接に関わっていることに気づくとともに、健康で快適な生活をおくるための薬に関する正しい知識を得る。

■使用教材 : ワークシート 1、スライド教材

■本時の展開

時間	内容	スライド
導入 12分	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活と健康との関わりについて考える ・健康を心がけていても病気になってしまった時に、正しく対処するための方法や、薬について考える 	
	<p>2. 普段の自分の生活習慣をふりかえり、健康を維持するために必要なこと、病気になった時の対応方法を考えながら、自分の生活と薬が密接に関わっていることに気づく。</p> <p>発問 1.健康を維持するために必要なことは何だろう？</p> <p>check 1 普段の自分の生活をチェックしよう</p> <p>① ワークシートを使用し、あてはまる箇所にチェックを入れさせ、何個あてはまったかを挙手で確認する。</p> <p>② 以下の中学生・高校生の生活習慣の問題について説明する。</p> <p><中学生・高校生の生活習慣問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活が夜型になっている ・栄養がかたよっている ・睡眠時間が減少している ・運動が不足している ・食事時間が不規則である ・ストレスが多い ・朝食をとらないことが多い <p>③ 健康を保つために必要なことを考えさせ、何人かに発表させる。</p> <p>④ スライド教材を使って、健康を保つために必要なことを説明し、ワークシートの空欄に下記の下線文字を記入させる。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な<u>睡眠</u> ・適度な<u>運動</u> ・バランスのとれた<u>栄養</u>の摂取 ・<u>規則</u>正しい生活 </div> <p>⑤ 不規則な生活習慣が続くと病気になることもあり、日頃より規則正しい生活習慣を身につけることが大事である。一方で気をつけていても病気になってしまうこともあるため、病気になった時や体調が悪い時の対処法として以下を確認する。</p> <p><体調が悪いときの対処法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な栄養をとったり、安静にしたりしておく ・人間の体には自然に病気を治す能力（自然治癒力）が備わっているが、自然治癒力だけではどうすることもできない場合があり、そのような時には薬が必要となる（ワークシート参照） <p>⑥ 日常生活で使う薬について意外と知らないことが多いため、薬について学習することを伝える。</p>	

時間	内容	スライド
展開 ① 13分	<p>3. 普段使っている薬についてふりかえり、さまざまな薬を使用している(=私たちの生活に密接に関わっている)ことを確認する。</p> <p>発問 2.自分の生活に薬はどのように関わっているのだろうか？</p> <p>work 1 病気やけがの時どうしていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病気やけがをした時にどのように対処しているかを問いかけ、ワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。 ② 自然治癒力について説明する。(ワークシート参照) ③ どんな種類の薬を知っているか問いかけ、数名の生徒に発表させる。 例) 胃薬、目薬、湿布、酔い止め、解熱剤、咳止めシロップ、トローチ等 ④ 正しい薬の服用方法・使用方法を知っているか問いかける。 ⑤ 生活に関わることの多い薬であるが、薬の正しい服用方法・使用方法について意外に知識がないことに気づかせ、正しい知識をもつことの大切さを伝える。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を休めても症状が改善されない時、薬が必要となる ・普段あまり気にしないが、私たちはさまざまな薬を使用して生活している(体調が悪い時、目がかゆい、けがをした、車酔いをしないように) ・薬の形状もさまざまである 	
展開 ② 20分	<p>4. 薬にはさまざまな種類があり、それぞれに効き方や特徴が異なることを確認する。</p> <p>発問 3.薬についてどれくらい正しい知識をもっているのだろうか？</p> <p>check 2 「内服薬」と「外用薬」に分類してみよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 内服薬と外用薬の違いを説明し、ワークシートの空欄の中に下記の下線文字を記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <内服薬> <u>口</u>からのんで、成分が胃や腸などから吸収される薬 <外用薬> <u>皮膚</u>の表面や粘膜(口や目、鼻などの中)などに使用する薬 </div> ② ワークシートの①～⑨の薬を下の欄に☑を入れて分類させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <内服薬> ①カプセル剤 ⑤錠剤 ⑥粉薬 ⑨シロップ剤 <外用薬> ②点眼剤 ③坐剤 ④湿布 ⑦点鼻剤 ⑧軟膏剤 </div> ③ 内服薬にも外用薬にも、それぞれさまざまな形があることを確認しながら、なぜ、このような違いがあると思うか問いかける。 ④ ①カプセル剤と⑥粉薬は、形が違うことでどんな違いがあるか問いかける。 ⑤ 内服薬・外用薬それぞれの薬の形状について説明する。(ワークシート参照) ※薬の形状詳細については、<u>本冊子 P.15</u>を参考資料としてご活用ください 	

時間	内容	スライド
<p>つづき 展開 ② 20分</p>	<p>5. 薬を正しく使用することの大切さを理解し、使用するタイミング、回数、服用方法、のみ合わせ、目薬のさし方など薬を正しく使用するためのポイントを知る。</p> <p>check 3 薬の正しい使い方を考えてみよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例 1~4 の項目について、ワークシートに記載されている○・×のいずれか正しいと思う方に印を記入させる。 ② 回答を全体で共有する。 ③ 映像視聴 解説映像(約 8 分)を視聴し、正しい薬の使い方を確認する。 ※映像はスライド上で自動再生されますが、再生されない場合はダウンロードしたスライド教材フォルダ内の[解説編 1~4.wmv]から直接再生させてください ※【薬の正しいのみ方】【薬のみ合わせ】【目薬の正しいさし方】 【薬を使う上で大切なこと】について、補足説明する場合はスライドをご利用ください ※参考資料として、本書 P.15「正しい薬の使い方」の補足ポイントをご活用ください ※この映像は 2010 年に撮影しているため、使用しているロゴ等は当時のものとなります 	  
	<p>6. 主作用・副作用について理解する。</p> <p>4.主作用と副作用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 薬を使う時は、自分の症状にあっているかどうかを確認することが大切であり、その際、「どのような症状に効くのか」「用法・用量」「使用上の注意」のほか、「主作用・副作用」について注意を払う必要があることを伝える。 ② 薬には「主作用」と「副作用」があり、それらはどのような関係にあるのかを説明する。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主作用＝病気を治す目的に利用できる作用のこと ・副作用＝病気を治す目的以外の望ましくない作用のこと 	  
<p>まとめ 5分</p>	<p>7. まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 薬を使用する場合は、自分の目で「効能・効果」「用法・用量」「使用上の注意」を確認することが大切であることを再度おさえる。 ② 次回の内容を伝える。 次の授業では、症状に合わせて正しい薬を選ぶために、どんな情報を収集するかについて、具体的に紹介する。 ※本時のみの実施で終了する場合は、ワークシート 2 の work4(ふりかえり)を実施する 	 

2 しょうじょう 症状に適した薬を選択しよう

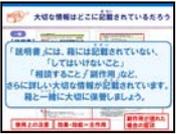
ねらい

- 症状に合わせて正しい薬を選ぶためには、どのような情報を知っておく必要があるかについて、ケーススタディを行う。
- < 医療用医薬品承認制度について学習する場合 >
- 医療用医薬品の研究開発から販売までの流れを知り、医薬品は有効性や安全性を審査してつくられていることを理解する。

■ 使用教材 : ワークシート 2、スライド教材

■ 本時の展開

時間	内容	スライド
導入 5分	<p>1. 前時のふりかえりと本時のめあてを確認する。</p> <p>< ふりかえり > ※ワークシート1を確認しながらふりかえりを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活習慣と健康との関わりについて考えるとともに、自分の生活は薬と密接に結びついていること ・薬を正しく使用しなければ効果に影響すること <p>< 本時のめあて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状に合わせて正しい薬を選ぶために、どのような情報を収集する必要があるかについて考える 	
展開 ① 30分	<p>2. 具体的な症状事例をもとに、どのように薬を選べばよいか、正しく選択するために必要な情報について学ぶ。</p> <p>発問 どんな情報をもとに正しい薬を選べばよいのだろうか？</p> <p>work 2 症状に合う薬を選んでみよう</p> <p>症状 「あなたは15歳の中学3年生。花粉症になり、ひどい鼻水と鼻づまりで頭がボーっとしている。薬で早く治したい。」</p> <p>ワークのポイント 箱には薬を選ぶための大切な情報が記されていることに気づく</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 症状の内容に対して、どの薬を選ぶのかをグループで考えさせ、ワークシートに記入させる。選んだ薬はほかの薬と何が違うのかを、グループで考えさせる。 ② どの薬を選んだのか全体で共有する。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 予測される生徒の発表 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アルガードST鼻炎スプレー」: 7才以上だから15才でも使える 直接患部にふきかける、のみ薬ではない など ・「アルガード鼻炎内服薬Z」: カプセル剤だからのみやすい など ・「アルガード鼻炎クールアップ」: 水なしでものめる、携帯に便利 など </div> <ol style="list-style-type: none"> ③ スライドを使って、薬を選ぶ際に必要な情報として、商品の箱には大切な情報が記載されていることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・何に効くのか = 「効能・効果」 ・いつ飲むのか？ 一日何回使うのか？ 服用できる年齢は？ = 「用法・用量」 ・使用する際の注意事項（守ってほしいこと） = 「注意」 ・薬の形状の説明 ④ 上記の情報を確認した上で、自分の条件に合うものを選択するよう伝える。 (条件)・15才以上が使うのであれば、どれが適当だろうか ・外ですぐに使いたいのであれば、どれが適当だろうか ⑤ スライドを使って、使用する人の年齢、使用場面に応じて選択することが必要であることを説明する。 	

時間	内容	スライド
<p>つづき 展開 ① 30分</p>	<p>⑥ 「効能・効果」は同じなのに、薬の形が違うのはなぜかを考えさせ、数名の生徒に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点鼻剤＝鼻の粘膜に直接作用させる ・チュアブル剤＝水なしでのめる <p>⑦ 薬には効能・効果、用法・用量に応じてさまざまなものがあることを伝える。</p> <p>⑧ 薬を選択するために、確認しなければならないことを整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような症状に効くのか ・用法・用量 ・使用上の注意 </div> <p>work 3 「副作用」などの確認すべき情報は、「説明書」のどこに記載されているのだろう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークのポイント 説明書は、主作用・副作用をはじめとして、薬を使用するにあたって重要な内容が記載されていることを理解する</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※薬の箱の展開図をダウンロードして使用する場合は、以下の内容を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「アルガード鼻炎内服薬Z」の展開図を見て、大切な情報（効能・効果、用法・用量）がどこに記載されているか探そう伝える。 2) どこに大切な情報が記載されていると思うか、数名の生徒に発表させる。 </div> <p>⑨ スライドを使って、箱の中には必ず説明書が入っていることを伝える。</p> <p>⑩ 説明書（ワークシート右側）のどの部分に大切な情報（効能・効果、用法・用量、使用上の注意、副作用が現れた場合の症状）が記載されているかを探し、マーカーで囲むなどして印をするよう伝える。</p> <p>⑪ どの部分に印をつけたか、数名の生徒に発表させる。</p> <p>⑫ 箱に記載されている情報だけではなく、説明書に記載されている情報も薬を使用するにあたって重要であることを伝え、説明書の内容を説明する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱に記載されている情報に加えて、より多くの薬に関する情報が説明書に記載されているため、使用する際には、説明書を確認し保管しておくことが大切である </div> <p>⑬ 思わぬ症状が出た場合には、必ず医師・薬剤師・家の人に相談するよう伝える。</p> <p>⑭ 説明書は主作用・副作用をはじめとして、薬を使用するにあたって重要な内容が記載されていることを確認する。</p> <p>⑮ ワークのまとめとして下記のポイントをおさえる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の症状に適した薬を選択するためには、自分の目で箱や説明書を確認して使うことが大切 ・薬は症状によってさまざまな種類があることを理解しておくことが大切 ・家にある薬の情報をきちんと調べておき、症状に応じて適切な薬を選ぶことが重要 ・薬を使用しても症状が改善しない場合には病院に行くことが大切（勝手な自己判断は絶対にしてはいけないので、不安な場合は必ず病院に行って診察してもらい、医師と相談する） </div>	   

時間	内容	スライド
展開 ② 10分	<p>3. 日常生活で起こり得る薬に関する疑問を考えながら、服用ルールの根拠となる考え方を知る。</p> <p>check 4 一緒に考えてみよう～薬についてのQ&A～</p> <p>ワークのポイント 薬をのむ上で起こる疑問について、なぜそうしてはいけないか、その理由をQ&A形式で考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬に関する疑問を1つずつ提示し、選択肢の中から間違っていると思うものすべてに☑を入れるよう伝え、間違っていると思う理由をペアで考えさせる。 どのような理由を考えたか、数名の生徒に発表させる。 生徒の発表をふまえながら、クイズの答えを解説する。 ※ワーク解説詳細については、<u>本冊子 P.17</u>をご活用ください 状況に応じて、<u>ワークシート</u>に記載しているコラムについて説明する。 説明書に従って、用法・用量を守ることが大切であることをおさえる。 <p><医療用医薬品承認制度について学習する場合></p> <p>4. 医療用医薬品の研究開発から販売までの流れを知り、医薬品は有効性や安全性を審査してつくられていることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>ワークシート</u>のコラムを用いて、医療用医薬品承認制度について説明する。 ※医療用医薬品承認制度の解説については、<u>本冊子 P.18</u>をご活用ください 	
まとめ 5分	<p>5. まとめ</p> <p>work 4 今日の授業で学んだことをふりかえろう</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>ワークシート</u>に記入させ、数名の生徒に発表させる。 今回の授業内容を再度伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活をおくることが第一であるが、どうしても体調が悪い時やけがをすることもあり、薬を使うことがある 薬にはさまざまな種類があるため、正しい服用方法・使用方法を理解しておく 薬を選ぶ時には、箱や説明書に書いてある情報をしっかり確認し、自分の症状に最も適しているものを選ぶことが重要 家にどんな薬があるのか、それぞれにどんな効能・効果があるのか、注意すべきことは何かを調べておき、自分自身が選択できるようにする </div> <p>・薬の使い方がわからない時は、医師・薬剤師・家の人に相談しよう！</p>	

1 時限で実施する場合の進行詳細

ねらい

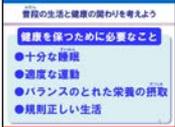
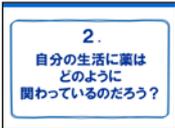
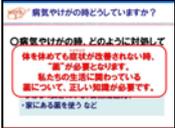
- 自分の生活をふりかえりながら、普段の生活と健康との関わりについて考える。また、自分の生活と薬は密接に関わっていることに気づくとともに、健康で快適な生活をおくるための薬に関する正しい知識を得る。
 - 症状に合わせて正しい薬を選ぶためには、どのような情報を知っておく必要があるかについて、ケーススタディを行う。
- <医療用医薬品承認制度について学習する場合>
- 医療用医薬品の研究開発から販売までの流れを知り、医薬品は有効性や安全性を審査してつくられていることを理解する。

1 時限実施のポイント

時間短縮のために、**work**のみ実施し、**check**については、スライド教材を使って説明することとめます。

■使用教材 : ワークシート 1・2、スライド教材

■本時の展開

時間	内容	スライド
導入 5分	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を心がけていても病気になってしまった時に、正しく対処するための方法や、薬について考える ・症状に合わせて正しい薬を選ぶために、どのような情報を収集する必要があるかについて考える 	
	<p>2. 普段の自分の生活習慣をふりかえり、健康を維持するために必要なこと、病気になった時の対応方法を考えながら、自分の生活と薬が密接に関わっていることに気づく。</p> <p>1 時限実施ポイント check はワークシートを用いず、普段の生活について口頭で問いかけ挙手で確認することとめ、授業を進行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スライドを使って、普段の自分の生活習慣に当てはまる箇所を挙手で確認し、不規則な生活が続くと病気になることがあることを伝える。 ② スライドを使って、健康を保つために必要なことを説明する。 ③ 日頃より規則正しい生活を心がけていても、体調が悪くなってしまうこともあり、その際の対処法として以下を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <体調が悪いときの対処法> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な栄養をとったり、安静にしたりしておく ・人間の体には自然に病気を治す能力（自然治癒力）が備わっているが、自然治癒力だけではどうすることもできない場合があり、そのような時には薬が必要となる（ワークシート参照） ④ 普段、日常生活で使う薬を使用する際、説明書などを必ず確認しているかを問いかけ、薬の服用方法・使用方法などに対してあまり意識していないことに気づかせる。 ⑤ 日常生活で使う薬について意外と知らないことが多いため、薬について学習することを伝える。 	 
展開 ① 15分	<p>3. 普段使っている薬についてふりかえり、さまざまな薬を使用している(=私たちの生活に密接に関わっている)ことを確認する。</p> <p>発問 2.自分の生活に薬はどのように関わっているのだろうか？</p> <p>work 病気やけがの時どうしていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病気やけがをした時にどのように対処しているかを問いかけ、ワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。 ② どんな種類の薬を知っているかを問いかけ、数名の生徒に発表させる。 例) 胃薬、目薬、湿布、酔い止め、解熱剤、咳止めシロップ、トローチ等 	 

時間	内容	スライド
つづき 展開 ① 15分	<p>③ 正しい薬の服用方法・使用方法を知っているか問いかける。</p> <p>④ 生活に関わることの多い薬であるが、薬の正しい服用方法・使用方法について意外に知識がないことに気づかせ、正しい知識をもつことの大切さを伝える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を休めても症状が改善されない時、薬が必要となる ・普段あまり気にしないが、私たちはさまざまな薬を使用して生活している(体調が悪い時、目がかゆい、けがをした、車酔いをしないように) ・薬の形状もさまざまである </div>	
	<p>4. 薬にはさまざまな種類があり、それぞれに効き方や特徴が異なることを確認し、映像教材を通して、薬を正しく使用するためのポイントを知る。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 時限実施ポイント check 2 はワークシートを用いず、内服薬と外用薬の違いについて口頭で問いかけて数名の生徒に発表させるにとどめ、授業を進行します。</p> </div> <p>① 内服薬と外用薬の違いを問いかけて、内服薬と外用薬の違いをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><内服薬> 口からのので、成分が胃や腸などから吸収される薬</p> <p><外用薬> 皮膚の表面や粘膜(口や目、鼻などの中)などに使用する薬</p> </div> <p>② スライドを使って、内服薬にも外用薬にも、それぞれさまざまな形があることを確認しながら、なぜ、このような違いがあると思うかを問いかける。</p> <p>③ 内服薬・外用薬それぞれの薬の形状について説明する。(ワークシート参照) ※薬の形状詳細については、<u>本冊子 P.15</u>を参考資料としてご活用ください</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 時限実施ポイント check 3 は、ワークシートを用いず、スライドを提示し、口頭で問いかけて挙手で確認することとどめ、授業を進行します。</p> </div> <p>④ スライドを使って、薬の正しい使い方について、事例 1~4 の項目を○×クイズで確認する。</p> <p>⑤ 映像視聴 解説映像(約 8 分)を視聴し、正しい薬の使い方を確認する。</p> <p>※映像はスライド上で自動再生されますが、再生されない場合はダウンロードしたスライド教材フォルダ内の[解説編 1~4.wmv]から直接再生させてください</p> <p>※【薬の正しいのみ方】【薬のみ合わせ】【目薬の正しいさし方】【薬を使う上で大切なこと】について、補足説明する場合は、スライドをご利用ください</p> <p>※参考資料として、<u>本書 P.15</u>「正しい薬の使い方」の補足ポイントをご活用ください</p> <p>※この映像は 2010 年に撮影しているため、使用しているロゴ等は当時のものとなります</p>	
	<p>5. 主作用と副作用について知り、薬を正しく使用することの大切さを理解する。</p> <p>① 薬を使う時は、自分の症状にあっているかどうかを確認することが大切であり、その際、「どのような症状に効くのか」「用法・用量」「使用上の注意」のほか、「主作用・副作用」について注意を払う必要があることを伝える。</p> <p>② 薬には「主作用」と「副作用」があり、それらはどのような関係にあるのかを説明する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主作用＝病気を治す目的に利用できる作用のこと ・副作用＝病気を治す目的以外の望ましくない作用のこと </div> <p>③ 薬を使用する場合は、自分の目で「効能・効果」「用法・用量」「使用上の注意」を確認することが大切であることを再度おさえる。</p>	

時間	内容	スライド
<p>展開 ② 20分</p>	<p>6. 具体的な症状事例をもとに、どのように薬を選べばよいか、正しく選択するために必要な情報について学ぶ。</p> <p>発問 どんな情報をもとに正しい薬を選べばよいのだろうか？</p> <p>work 2 症状に合う薬を選んでみよう</p> <p>症状 「あなたは15才の中学3年生。花粉症になり、ひどい鼻水と鼻づまりで頭がボーっとしている。薬で早く治したい。」</p> <p>ワークのポイント 箱には薬を選ぶための大切な情報が記されていることに気づく</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 症状の内容に対して、どの薬を選ぶのかをグループで考えさせ、ワークシートに記入させる。選んだ薬はほかの薬と何が違うのかを、グループで考えさせる。 ② どの薬を選んだのか全体で共有する。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><予測される生徒の発表></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アルガードST鼻炎スプレー」: 7才以上だから15才でも使える 直接患部にふきかける、のみ薬ではない など ・「アルガード鼻炎内服薬Z」: カプセル剤だからのみやすい など ・「アルガード鼻炎クールアップ」: 水なしでものめる、携帯に便利 など </div> ③ スライドを使って、薬を選ぶ際に必要な情報として、商品の箱には大切な情報が記載されていることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 何に効くのか = 「効能・効果」 ・ いつのむのか? 一日何回使うのか? 服用できる年齢は? = 「用法・用量」 ・ 使用する際の注意事項 (守ってほしいこと) = 「注意」 ・ 薬の形状の説明 ④ 上記の情報を確認した上で、自分の条件に合うものを選択するよう伝える。 (条件)・15才以上が使うのであれば、どれが適当だろうか ・外ですぐに使いたいのであれば、どれが適当だろうか ⑤ スライドを使って、使用する人の年齢、使用場面に応じて選択することが必要であることを説明する。 ⑥ 「効能・効果」は同じなのに、薬の形が違うのはなぜかを考えさせ、数名の生徒に発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 点鼻剤 = 鼻の粘膜に直接作用させる ・ チュアブル剤 = 水なしでのめる ⑦ 薬には効能・効果、用法・用量に応じてさまざまなものがあることを伝える。 ⑧ 薬を選択するために、確認しなければならないことを整理する。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような症状に効くのか ・ 用法・用量 ・ 使用上の注意 </div> <p>work 3 「副作用」などの確認すべき情報は、「説明書」のどこに記載されているのだろう</p> <p>ワークのポイント 説明書は、主作用・副作用をはじめとして、薬を使用するにあたって重要な情報が記載されていることを理解する</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※薬の箱の展開図をダウンロードして使用する場合は、以下の内容を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「アルガード鼻炎内服薬Z」の展開図を見て、大切な情報(効能・効果、用法・用量)がどこに記載されているか探そう伝える。 2) どこに大切な情報が記載されていると思うか、数名の生徒に発表させる。 </div> <ol style="list-style-type: none"> ⑨ スライドを使って、箱の中には必ず説明書が入っていることを伝える。 ⑩ 説明書(ワークシート右側)のどの部分に大切な情報(効能・効果、用法・用量、使用上の注意、副作用が現れた場合の症状)が記載されているかを探し、マーカーで囲むなどして印をするよう伝える。 ⑪ どの部分に印をつけたか、数名の生徒に発表させる。 	<p>どんな情報をもとに正しい薬を選べばよいのだろうか？</p> <p>症状に合う薬を選んでみよう</p> <p>あなたは15才の中学3年生。花粉症になり、ひどい鼻水と鼻づまりで、頭がボーっとしている。薬で早く治したい。</p> <p>薬を選択する際に必要な情報 商品の箱には大切な情報が記載されている</p> <p>薬を選択する際に必要な情報</p> <p>「薬」を見て、どんな薬の比較してみよう 15才未満の子供であれば... 服用できる年齢の違い</p> <p>「薬」を見て、どんな薬の比較してみよう 薬の形状に留意して使用する 薬には効能・効果、用法・用量に応じてさまざまなものがある。</p>

時間	内容	スライド
つづき 展開 ② 20分	<p>⑫ 箱に記載されている情報だけでなく、説明書に記載されている情報も薬を使用するにあたって重要であることを伝え、説明書の内容を説明する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 箱に記載されている情報に加えて、より多くの薬に関する情報が説明書に記載されているため、使用する際には、説明書を確認し保管しておくことが大切である </div> <p>⑬ 思わぬ症状が出た場合には、必ず医師・薬剤師・家の人に相談するよう伝える。</p> <p>⑭ 説明書は主作用・副作用をはじめとして、薬を使用するにあたって重要な内容が記載されていることを確認する。</p> <p>⑮ ワークのまとめとして下記のポイントをおさえる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の症状に適した薬を選択するためには、自分の目で箱や説明書を確認して使うことが大切 薬は症状によってさまざまな種類があることを理解しておくことが大切 家にある薬の情報をきちんと調べておき、症状に応じて適切な薬を選ぶことが重要 薬を使用しても症状が改善しない場合には病院に行くことが大切 (勝手な自己判断は絶対にしてはいけないので、不安な場合は必ず病院に行き診察してもらい、医師と相談する) </div>	
まとめ 10分	<p>7. 日常生活で起こり得る薬に関する疑問を考えながら、服用ルールの根拠となる考え方を知る。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>1 時限実施ポイント check 4 は、ワークシートを用いず、スライドを提示して口頭で問いかけて挙手で確認するにとどめ、授業を進行します。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 薬に関する疑問を提示し、選択肢の中から間違っていると思うものを挙手で確認し、その理由を考えさせる。 どのような理由を考えたか、数名の生徒に発表させる。 生徒の発表をふまえながら、クイズの答えを解説する。 ※ワーク解説詳細については、本冊子 P.17をご活用ください 状況に応じて、<u>ワークシート</u>に記載しているコラムについて説明する。 説明書に従って、用法・用量を守ることが大切であることをおさえる。 <p><医療用医薬品承認制度について学習する場合></p> <p>8. 医療用医薬品の研究開発から販売までの流れを知り、医薬品は有効性や安全性を審査してつくられていることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>ワークシート</u>のコラムを用いて、医療用医薬品承認制度について説明する。 ※医療用医薬品承認制度の解説については、本冊子 P.18をご活用ください 	
	<p>9. まとめ</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; background-color: #fff9e6;"> <p>work 4 今日の授業で学んだことをふりかえろう</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <u>ワークシート</u>に記入し、数名の生徒に発表させる。 今回の授業内容を再度伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活をおくることが第一であるが、どうしても体調が悪い時やけがをすることもあり、薬を使うことがある 薬にはさまざまな種類があるため、正しい服用方法・使用方法を理解しておく 薬を選ぶ時には、箱や説明書に書いてある情報をしっかり確認し、自分の症状に最も適しているものを選ぶことが重要 家にどんな薬があるのか、それぞれにどんな効能・効果があるのか、注意すべきことは何かを調べておき、自分自身が選択できるようにする </div> <p style="color: red; text-align: center;">・薬の使い方がわからない時は、医師・薬剤師・家の人に相談しよう！</p>	

1 健康と自分の生活の関係を考える 参考資料

■内服薬・外用薬のポイント

内服薬	 <p>カプセル剤</p>	<p>薬の不快なおい味を隠したり、違った性質をもった薬を一緒に入れることができる工夫を施したもの。 カプセルのゼラチンが食道の粘膜に付着することがあるので、十分な水でのむことが望ましい。</p>
	 <p>錠剤</p>	<p>保管、携帯、服用に便利で、粉薬が苦手な人にも適している。 錠剤の中にはコーティング錠というものがあり、胃で溶けずに腸で溶けるように工夫されたものもあるので、その場合はかみくだかずにのむようにする。</p>
	 <p>粉薬</p>	<p>錠剤やカプセル剤に比べて素早く溶けるのが特長。 しかし、湿気に弱く、苦味やおいが苦手な人には不向きな点がある。</p>
	<p>*チュアブル剤</p>	<p>かみくだいてのむタイプの錠剤。 水がなくても使用することができるため、いつでものむことができ便利。 【参考】チュアブル(=chewable)とは、かむ(噛む=chew)ことができる(=able)という意味</p>
外用薬	 <p>坐剤</p>	<p>お尻から吸収させる薬のこと。お尻(肛門)の病気を治す場合もあれば、吸収が早い特長をいかし、熱を素早く下げたい時などに使われる。 また内服では副作用(胃粘膜を荒らすなど)が出る薬の使用や、内服が難しい小さな子ども(乳幼児など)の使用に適している。</p>
	 <p>湿布</p>	<p>皮膚に貼付して吸収させる薬のこと。患部へ貼付することで直接効果が期待できる。使用が簡単でかつ全身性の副作用が起りにくいなどの特長がある。</p>
	 <p>点鼻剤</p>	<p>鼻から吸収させる薬のこと。内服薬に比べて副作用(眠気など)が少なく、効かせたいところに素早く吸収、作用する。</p>
	<p>*トローチ剤</p>	<p>口の中で少しずつ溶かす錠剤タイプの薬。 風邪などの場合、のどの炎症部位に作用するので便利。のみ込んだり、かみくだかず、なるべく長時間口の中で溶かすようにすることが大切。 外用薬の分類に入る。</p>

*チュアブル剤・トローチ剤はスライドには掲載していません。参考情報として適宜お使いください

■正しい薬の使い方 補足のポイント

事例1 薬の正しいのみ方

- ・薬の用法・用量が決まっているのは、安全でかつ一番効果のあるタイミングで溶けるように作られているためである。
- ・薬は正しい使い方をしなければ効果が弱まったり、反対に強くなりすぎて思わぬ症状が出ることもあるので、用法・用量を守ってのむことが大切。
- ・勝手に量を増やしたり、のむ回数を変えたりしてはいけない。

※「食前」「食間」「食後」以外に「食直後」という用法もあります。

事例2 薬ののみ合わせ

- ・薬はのみ合わせによって、薬の効果が弱まったり、反対に強くなりすぎて思わぬ症状が出ることもある。

・薬は水かぬるま湯でのむことが大切。

※薬の中には、お茶やグレープフルーツジュースなどとのんでも構わないものもあるが、自分では判断できないため、相互作用のない水またはぬるま湯でのむことをすすめる。どうしても特定ののみ物でのみたい時は、医師・薬剤師に相談すること。

事例3 目薬の正しいさし方

- ・まつげやまぶたに触れないように点眼することが大切。
- ・さした後は、まぶたをさすると、涙点から目薬が流れ出てしまうため、目を閉じ、軽く目頭を押さえる。

事例4 薬を使う上で大切なこと

- ・どのような場合でも人からもらって何の薬か確認せずに薬を使用してはいけない。
- ・本当に自分の症状に合っている薬かどうか、情報をきちんと自分の目で確認することが大切。

確認すること	<p>効能・効果、用法・用量、使用上の注意 主作用：病気を治す目的に利用できる 副作用：病気を治す目的以外の望ましくない症状</p>
--------	--

・薬の使い方がわからない時は、医師・薬剤師・家の人に相談しよう！

2 症状に適した薬を選択しよう 参考資料

work 2 症状に合う薬を選んでみよう 参考資料

症状

「あなたは15才の中学3年生。花粉症になり、ひどい鼻水と鼻づまりで頭がボーっとしている。薬で早く治したい。」



商品名	アルガード ST 鼻炎スプレー	アルガード 鼻炎内服薬 Z	アルガード鼻炎 クールアップ EX
商品			
薬の形状	点鼻剤（外用薬）	カプセル剤（内服薬）	チュアブル剤（内服薬）
特徴	すぐに症状を緩和させる。 鼻の粘膜に直接作用させる。	胃や腸で吸収された後、全身（血管） を通過してから作用させる（鼻以外 の症状にも効果的）。	外出先などで、水などがのめない 場面に遭遇した時、水なしで服用 できる。 胃や腸で吸収された後、全身（血管） を通過してから作用させる（鼻以外 の症状にも効果的）。
用法・用量	1回1度ずつ 1日3~5回 （3時間以上の間隔をあげる） 7才以上	食後 1回1カプセル 1日3回 15才以上 （65才以上は服用できません）	1回1錠、1日3回 （4時間以上の間隔をあげる） かむか、口中で溶かして服用する 15才以上 （65才以上は服用できません）
効能・効果 （主作用）	花粉、ハウスダスト（室内塵）など による次のような鼻のアレルギー症状 の緩和 鼻みず（鼻汁過多）、鼻づまり、 くしゃみ、頭重（頭が重い）	急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は、 副鼻腔炎 による次の諸症状の緩和 くしゃみ、鼻みず（鼻汁過多）、 鼻づまり、なみだ目、のどの痛み、 頭重（頭が重い）	急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は、 副鼻腔炎 による次の諸症状の緩和 くしゃみ、鼻みず（鼻汁過多）、 鼻づまり、なみだ目、のどの痛み、 頭重（頭が重い）
注意事項 （副作用を含む）	発疹・発赤、かゆみ など	発疹・発赤、かゆみ、悪心、 食欲不振など	発疹・発赤、かゆみ、顔のほてり など

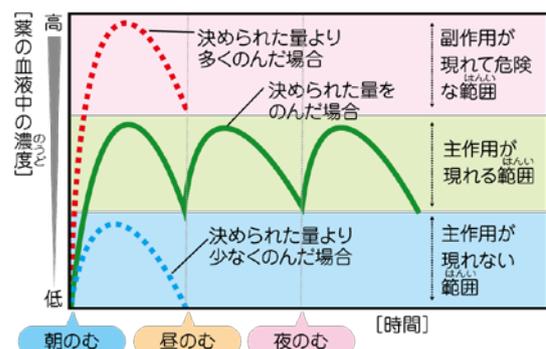
■血中濃度について

薬の効果は血液中の薬の濃度で変化します。薬は胃や腸で血液中に吸収され全身をまわり、目的の部位で効果を発揮します。血液中で溶けている薬の濃度を血中濃度といいます。血中濃度は、ある一定の濃度を保つことで、薬の効果が最大限に発揮できるように作られています。

右のグラフにあるように（ワークシート2掲載）薬のむ量、のむタイミングは計算されて作られていますので、それ以上にのむ量やのむ回数を増やすと、血中濃度が高くなり副作用を引き起こす可能性がありますし、逆にのむ回数を減らすと、血中濃度が低くなり、薬の効果が十分に発揮できません。

薬は正しく計算されて作られています。用法・用量を守らないと、薬の効果が発揮できませんので、用法・用量はきちんと守ることが大切なのです。

医薬品の使用量と作用（1日3回のむ薬の場合）



出典：日本学校保健会刊『薬の正しい使い方（中学生用）』

check 4 一緒に考えてみよう～薬についてのQ&A～ 解説資料

Q.1 あなたはどれ位の水の量で薬を服用しますか？

間違っているもの：水なし、水1口くらい

解説

薬は胃や腸で溶け体内に吸収されるため、薬を胃や腸へ運ぶ必要があります。ところが、十分な水で薬をのまない場合、胃に届かないだけでなく、食道に貼り付いてしまう可能性があり、そこから食道が傷ついたり潰瘍になったりすることもあります。また、薬の成分が水で薄められることで、胃腸の粘膜への負担を少なくすることもできるため、紙コップ1杯程度の十分な水でのむことをおすすめします。

Q.2 食後に1錠、のみ薬を服用し忘れてらどうしますか？

間違っているもの：のみ忘れて2時間過ぎていたが、思い出したので、そのとき飲む
次の食後にまとめて2錠のむ

解説

忘れたからといって忘れた分を含めて2錠のむことは危険です。薬の効き目は、血中濃度で決まります（ワークシート2）。箱や説明書に記載されている用法・用量を守らず、必要以上にのむと副作用が出る可能性もありますので、用法・用量に従ってのむことをおすすめします。30分以上経った後、のみ忘れに気づきどうしても薬をのむ場合は、軽食でもいいので食事をとってからのむことをおすすめします。ただし、次の薬をのむ場合は、1日3回服用の薬は、服用間隔を最低でも4時間以上（1日2回服用の薬は、服用間隔を6時間以上）あけてのむことをおすすめします。

1日3回服用の薬は、服用間隔を最低でも4時間あける。
1日2回服用の薬は、服用間隔を6～8時間あける。
(日本OTC医薬品協会 『セルフメディケーションハンドブック』2012引用)

Q.3 風邪を引いたので、ドラッグストアで市販されている風邪薬を購入。

用法・用量（1日3回、食後に1回1錠）を守っているが症状が改善しない。どうしますか？

間違っているもの：薬の量を1錠から2錠に増やしてのむ

解説

改善しないからといって勝手な判断で薬の量を増やしてのむことは危険です。改善しない場合は、薬剤師もしくは医師に相談しましょう。薬の効き目は、血中濃度で決まります（ワークシート2）。箱や説明書に記載されている用法・用量を守らず、必要以上にのむと副作用が出る可能性もありますので、用法・用量に従ってのむことをおすすめします。

■一般用医薬品について

医師の処方箋を必要とせず、薬局やドラッグストアなどで購入できる医薬品を「一般用医薬品（またはOTC医薬品）」と言い、含有する成分等により、以下のように整理することができます。

1) 第1類医薬品

副作用、相互作用などの項目で安全性上、特に注意を要するもの。販売できるのは薬剤師に限られており、店舗では、薬剤師の説明と書面による情報提供が義務付けられています。

2) 第2類医薬品

副作用、相互作用などの項目で安全性上、注意を要するもの。かぜ薬や胃腸薬、解熱剤、鎮痛剤、漢方薬など日常生活で必要性の高い製品の多くが含まれています。薬剤師または登録販売者からの情報提供は努力義務となっており、より注意を要するものは「指定第2類医薬品」に分類されています。

3) 第3類医薬品

副作用、相互作用などの項目で、安全性の注意が比較的軽微なもの。第1類医薬品、第2類医薬品に該当しない一般用医薬品です。目薬や皮膚用薬などの多くは、第3類医薬品に含まれます。

※医療用成分が一般用として転換（スイッチ）した直後のものは、説明を書面によりしっかり行うことと薬剤師による対面販売が必要となり「要指導医薬品」として区分されています。また、OTC医薬品についてはインターネット販売も解禁されていますが、購入にあたっては用法・用量、使用上の注意を守り正しく使用する点には変わりありません。

■医療用医薬品承認制度とジェネリック医薬品

◆ 医療用医薬品承認制度とは ◆

医薬品は、有効性と安全性が兼ね備えられていなければなりません。そのため、一つの医薬品ができるまで、9～17年もの年月をかけて、何度も試験を繰り返し有効性と安全性を確認し、国の承認を得た後、製造・販売できる仕組みになっています。(ワークシート2参照)

医薬品の研究は、承認を得て発売されて終わるのではなく、発売後も約4～10年かけてたくさんの人を対象に継続した調査を行い、開発段階では発見できなかった副作用や有効性、薬の正しい使い方の情報を集めます。その情報をもとに、より安全な医薬品の使い方の検討などが行われています。

◆ ジェネリック医薬品とは ◆

上記のようにつくられた医薬品は新薬(先発医薬品)といわれ、開発した会社が一定期間独占的に製造・販売する権利(特許)を得ます。その特許期間が過ぎると、ほかの会社が同じ有効成分の医薬品をつくることができるようになります。

この新薬(先発医薬品)と同じ有効成分を使い、効き目、品質、安全性が同等の薬をジェネリック医薬品(後発医薬品)といいます。

膨大な時間と費用をかけてつくられた新薬(先発医薬品)に対し、ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、有効性や安全性が証明されている成分を用いて開発されることから、約3年という短期間に加え、少ない費用でつくることができます。そのため新薬と同じ効き目がありながら、安い費用で購入することができます。

発行：ロート製薬株式会社

発行日：2016年4月